

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和5年10月13日（金）13：30～15：10
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室
- 4 参加者

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 会 長 | 田村 弘司 元岐阜県教育委員会教育次長、元岐阜県高等学校長協会会長 |
| 委 員 | 伊藤三枝子 清流の国ぎふ女性防災士会会長 |
| | 原田 理人 岐阜協立大学学長 |
| | 須田山智成 本校育友会長 |
| | 牧岡さつき 大垣市男女共同参画推進室長 |
| | 山田 治美 大垣市立赤坂中学校校長 |

*以下の4名の委員は欠席

| |
|-----------------------|
| 安藤 光男 大垣国際交流協会常務理事 |
| 種田千佳子 (株)種田石油店代表取締役社長 |
| 兒玉 榮一 本校同窓会長 |
| 堤 俊彦 大垣市体育連盟会長 |

| | |
|-------|--------------|
| 学 校 側 | 小野 悟 校長 |
| | 橋 博 教頭 |
| | 笠井 智子 教頭 |
| | 田中 卓哉 教務主任 |
| | 中島 啓 生徒指導主事 |
| | 野村 公宣 生徒部長 |
| | 足立 郁子 研修部長 |
| | 近藤 健二 探究推進部長 |

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 服装規定を巡る現状の報告
- (2) 服装規定を巡る現状について

意見1：私の勤務校ではまだ、制服の特例措置は解除していない。制服に戻すつもりだが、制服に戻すことへの生徒の抵抗感が強かった。女子生徒のスカートは自転車に乗りにくい、雨の日は濡れてしまうので体操服での通学を認めてもらいたいなど意見が様々あった。生徒の意見にも納得する部分があり、制服について考えることに価値がある。

意見2：ゴールを設定してから検討を重ねるのが良いのではないかと。普段着用しなくてよい制服を式典時だけ着る場合の経済性に問題がある。普段体操服を着る場合も衛生面で問題がある。ある時点で、皆が望ましいと思えるゴールを示すと検討しやすい。

意見3：生徒の言葉にあった温かく見守ってほしいということに尽きる。生徒を含めてどうあるべきか十分考えれば、保護者はそれをバックアップしていく。自分の意志で進学しているので、服装についても自分の意志で服装を決めればよい。卒業後には式典などでスーツを着ていくのであれば、いまから同じようにさせてもよい。また、制服は、企業であればPRの面を持っているが、学校でそのような必要性はない。

意見4：議論はどこに向かっていくのかが大切である。アンケート結果によると、現在の制服を残すと考え

ているものが過半数で、殆どの生徒及び保護者は服を残したいという意向である。この結果から制服を変えるあるいはどの制服を選ぶかという議論にはならない。元来制服は区別するためにできたもので、その必要性の是非を考えることが前提になるが、制服は現状維持だが応用性のあるものにしてほしいと読み取れる。その応用性の範囲をしっかりと議論するべきである。生徒から見ると制服を気に入っているのではないか。制服を着ないところも増えてきているが、その場合は服に時間も費用もかけなくてはならない。

意見5：多様性、機能性、経済性についてしっかり議論する必要がある。経済性を問題にする保護者は多くはないかもしれないが無視はできない。多様性はLGBTQやダイバーシティ、インクルージョンなど無視できないので、この点における応用性を考える必要がある。また、機能性についても今の制服が適応していないのであればどうするのかを議論する必要がある。

意見6：西濃地区では、中学校の制服が高校でも利用できるという経済的な面が大きかった。西濃地区の中学校の制服が変わるということで、令和10年がタイムリミットとなる。令和4年度から服装Bにおいてスラックスが認められたようだが、服装Aでスカートをはきたいという場合はどうなるのか。⇒そういった対応はできていない。

意見7：現在の中学生はコロナ禍のため制服を殆ど着用していないので、高校でも使えたらと考えているからプレザー型の導入は望んでいないのではないかな。

意見8：経済面でいうと、制服にはクリーニング代がかかる。体操服なら家で洗濯できるが、制服は頻繁に洗濯ができないからどちらが清潔なのかはわからない。

(3) 海外研修の令和6年度再開に向けた検討概要の報告

(4) 海外研修について

意見1：参加生徒や研修期間はどの位を想定しているのか。また、多くの生徒に参加してもらいたいが、費用が高い。助成金なども検討できるとよい。

⇒参加生徒は30人から40人程度、研修期間は7日から10日を考えている。

意見2：若い時期の海外体験は有益である。異文化体験もよいが、困る体験をするのが良い。ただ、安全なところであることが必要だから、一人ずつのホームステイが良い。世界情勢が不安定なので、比較的 안전한シンガポールやオーストラリアが良い。

意見3：金額面と安全面が重要である。

(5) 学校運営についての提案・意見

意見1：校内で販売しているパンの販売業者に問題があったが、今後どのように対応するのか。

⇒同一年度内で2度目でもあり、販売再開は困難であると考えている。

意見2：気象警報発令時の自宅待機等の連絡をしてもらえないが、混乱する場合もあり連絡してもらえないか

⇒生徒が自主的に情報を集めて判断してもらいたいという目的で昨年度から取りやめたものであるが、こうした意見もふまえて改めて検討する。

意見3：懸垂幕の設備があるのに、部活動の活躍を広報していないが今後もしないのか。

⇒現在ある設備には安全性に問題があるため、利用を控えている。今後、再整備も含めて検討していきたい。

6 会議のまとめ

服装規定に係ることについては、生徒の主体性を育てる観点も重要であると考えている。その意味でも様々な情報を生徒に提示し、それに基づいて、LHRを含めて考える場を設けていきたいと考えて、次回の当会では検討の進み具合などを報告する予定である。

各委員の皆さまから忌憚のない意見が得られた。いただいた意見を踏まえて課題検討を進めていく。